

令和6年度澄川小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：26013
学校名：澄川小学校

実態	「学ぶ力」	
	これまでの 成果	課 題
	◇児童アンケートや教職員アンケートから、「自分から考えを話す」が9割を越えているという実態がある。 ◇児童アンケート「学習や授業の振り返りなどから自分の成長を感じている」も9割を越え、札幌市の共通指標72.8%より高い数値である。 ◇前年度の研究主題「主体的に学び、共に学び合う子ども」の実現に向けた授業改善によって、ウェルビーイングの向上につなげることができた。	◇共通指標において次年度の方向性の視点として、「協働を通して相互承認の感度を磨く」が示されている。 ◇札幌市における全国学力・学習状況調査から、「自ら学んだことを関連付けたり自らの変容を振り返ったりする機会の創出が必要である。」との指摘がある。 ◇児童や保護者のアンケートから、「あいさつは自分からできていますか。」が9割未満である。「自分から」を重視することで、主体性を高める取組の充実を図りたい。
	「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
	◇児童アンケート「友達を思いやり、他の学年の友達とも仲良くしていますか。」の相互承認に関連する項目において、肯定が95%と高かった。「ふれあい遊び」など異学年交流を適宜取り入れたこと、学級や学年での支持的風土を重視し多様性を尊重してきたことが自己肯定感の高まりにつながったと考える。引き続き、「自分が大切にされている」と実感できる場や価値付けを重視し、個別探究・協働探究の一体的な充実により一人一人の学ぶ力を高めていきたい。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

相互に声を聴き合い、相互の声に応える力

取組	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
	◇課題探究的な授業の一層の充実 →個別探究・協働探究を、単元に意図的・計画的に配置する ◇自己調整力・AARサイクルを発揮し、学びに向かう力が連続的・発展的になるような教師の適切な関わり →指導と評価の一体化 学びがい 自己有用感 →学びのコントローラーを持っているのは子ども自身 ◇子どもの意欲が高まる、憧れに憧れる「本物の経験」 →本物の「もの・人・こと」に触れる体験的活動を重視 ◇教育DX 電子化・最適化・新たな価値 → Best Mix 第三の道	◇実生活・単元の学習から「～したい」という課題を見付け、意欲を醸成する →自分たちのことを自分たちで決定する場を保障 ◇よりよい方法を考えて動くとともに、失敗から学べる場の構成 →民主的、話合い、支持的風土を重視・多様性を尊重 ◇主体的な集団づくりや社会への参画などの活動支援 →よさを位置付ける・意味付ける・価値付ける教師の関わり ◇変化を生み出した喜びを手ごたえとして心に残すまとめ・表現 →子どもの声を教師も相互に聴き合う、応える

〈本プログラムの実行に向けて〉

